

Neues in Nara

Nr. 74
2021年1月29日



フライブルク Martinstor

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daianji.or.jp/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)、峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)

編集委員より：会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています！

●行事報告

1. 大安寺国際縁日 11月2日

♪癒しとやすらぎのコンサート♪

祈りよ届け！世界の人々に！

Gebete für die Menschen der Welt!

標題のコンサートが、11月2日（月）、15時から16時30分、大安寺において大安寺国際縁日実行委員会主催で、開催されましたので、その概要をご報告します。この日は、大安寺開山の道慈律師の命日にあたり、遺徳を偲び、新型コロナウイルスの感染拡大終息を祈願し、大般若経転読会が厳粛に営まれた。当日は終日雨天のため、当初予定の境内会場を「獅子吼殿」と「本堂」の二か所に分け、演奏者の方々は、それぞれの会場を移動して演奏されました。

「TOMOO & SAKI」ヴァイオリン龍谷紗希 ピアノ野上朝生、「万葉 SOUL」ヴォーカル竹中信子 キーボード村尾浩史、そして「瑠璃音（るりね）」フルート笠井詠子 ピアノ中山夕子の3グループにより、生歌および生演奏*が披露され音楽好きの人たちを魅了した。協力した当協会から、筆者と松本規子が、運営に参加しました。（松本俊郎 記）

* <https://narastagclub.jp/event/pdf/2020.pdf>



絵馬

祈りよ届け！世界の人々に！



「万葉 SOUL」本殿会場

2. ドイツ映画鑑賞会

コロナ禍で活動が制約される中、当会本年度初めての試みとして、11月29日大安寺獅子吼殿にて、ドイツ映画「ぼくたちは希望という名の列車に乗った」の鑑賞会を開催し、11名の会員が参加した。



3. 「大阪ドイツ映画祭」

日独交流 160 周年プレイベントとして上記映画祭が、11月28日大阪工大梅田キャンパスにて開催され、当会より林副会長及び松本夫妻各理事が参加した。

●会員だより

米田真理子さんから

「思い出の地 フライブルク」

私の祖母は、戦時下を青島で過ごした。そのドイツ租界にまつわる話を聞いていた私が、地元の愛媛県松山市と姉妹都市であるフライブルクに関心を抱き留学先に選んだのは、自然なことだったと思う。

旧市街に降り立つと、縦横に巡らされた**疎水 Bächle** が一際目を惹く。道行く者の心を癒してくれる清流は、遡れば黒い森に源を成し、800年を超える歴史があるという。

更に、中世の面影を宿す **Martinstor** を最先端の **S-Bahn** が行き交い、傍では景観に馴染むよう意匠が煉瓦色に変更された某飲食店が学生で賑わう。環境先進都市として世界に名高い街づくりは、連綿と人々の意識に根差しているものなのだろう。又、中心地にはロマネスクとゴシックの様式が融合した大聖堂が堂々と聳え立つ。気の赴くまま立寄り、オルガンに耳を傾け厳かな調に身を委ねるのも、狭い螺旋階段を上り尖塔から一帯の景色を眺め浸るのも、日常の贅沢なひと時だった。

更にドイツ南西端のこの街は、スイスやフランスが目と鼻の先にある。学校の「遠足」でパスポートも持たず国境を跨いだことは、島国の日本人にとって実に新鮮で貴重な体験となった。

互いの国を行き来し合う友にも恵まれ、2019年にはフライブルクで再会した。令和になる瞬間は中央通り **Kaiser-Joseph-Straße** で肩を組み、新時代の到来を仲間と共に祝福出来て非常に感慨深かった。

その際交わした「来年は日本で五輪を盛り上げよう」という約束が叶わなかったのは口惜しいが、**„Aufgeschoben ist nicht aufgehoben.“**を合言葉に、次の機会を心待ちにしているところである。



Schwarzwald で
(右から二人目に筆者)



Bächle

●マルティン・エバーツドイツ連邦共和国総領事より
新年のメッセージを頂きました。次ページ(裏面)をご覧ください。

Grußwort für JDG Nara

Liebe Freunde Deutschlands, der deutschen Sprache und Kultur in der Präfektur Nara!

Selten wurde ein Jahreswechsel weltweit mit so vielen Sorgen und zugleich so vielen Hoffnungen verbunden wie der von 2020 auf 2021.

Wir alle hoffen und wünschen uns, dass das neue Jahr ein Ende der Pandemie und der damit verbundenen Leiden und Probleme bringt. Als Generalkonsul der Bundesrepublik Deutschland blicke ich aber, trotz aller Erschwernisse dieser Zeit, mit Dank zurück und mit Zuversicht in die Zukunft. Mein Rückblick auf 2020 ist von Dank geprägt für die Freundschaft und Sympathie, die ich nach meiner Ankunft in Japan von unseren japanischen Freunden und Kollegen erfahren durfte, so dass ich mich hier sogleich willkommen und bald wie zuhause gefühlt habe. In das neue Jahr 2021 aber blicke ich mit Zuversicht und Freude, weil es uns Deutschen und Japanern so gute neue Anknüpfungspunkte für unsere Zusammenarbeit gibt: Wir feiern das 160. Jubiläum der offiziellen Aufnahme diplomatischer Beziehungen.

Dieses schöne Jubiläum wollen wir mit einer Serie von Veranstaltungen begehen. Dabei stützen wir uns ganz besonders auf das Netz der Japanisch-Deutschen Gesellschaften im Lande. Ich vertraue auf die Kreativität und das Engagement der JDG Nara und freue mich auf die gemeinsame Arbeit! Wäre es nicht schön, in diesem Jahr einmal das Augenmerk ganz besonders auf die zwischenmenschlichen Aspekte unserer Beziehungen zu richten? Nach der Zwangspause beim direkten Besucheraustausch haben wir einen Nachholbedarf an Kontakten und Austausch. Warten wir nicht ab, bis alle Reisebeschränkungen wieder aufgehoben sind, sondern seien wir kreativ im Finden neuer Begegnungsformate, auch wenn es nur ‚virtuelle‘ sind!

Schreiben Sie mir von Ihren Hoffnungen und Erwartungen für das Jubiläumsjahr! Lassen Sie uns für jeden Monat dieses Jahres ein Thema finden, zu dem wir eine Initiative ergreifen, Anregungen geben oder Kontakte vermitteln können! Für Ihre Freundschaft und Ihre Treue zur deutschen Sprache und Kultur danke ich Ihnen herzlich und wünsche Ihnen allen ein glückliches und gesegnetes Jahr des Büffels!

Martin Eberts
Generalkonsul der Bundesrepublik Deutschland



奈良日独協会の皆様へのごあいさつ

ドイツ、ドイツ語、ドイツ文化を愛好する、奈良の友人の皆様へ
この年末年始ほど、世界中がこれほど多くの不安と希望に同時に満ちていた年はなかったでしょう。今年は誰もがパンデミックと、それに伴う苦しみや問題の終息を願っています。ドイツ連邦共和国総領事として、様々な困難はありましたが、しかし昨年に対しては感謝、また未来へは希望を感じています。2020年を振り返ると、日本赴任後、友人や同僚が示してくれた友情や心遣いへの感謝でいっぱいです。当初より温かく迎えられ、すぐに日本を新たな故郷と思うようになりました。2021年は日独外交関係樹立160周年にあたります。私はこの年が日独の協力関係をより一層豊かにするものと確信し、嬉しく思っています。

この素晴らしい記念の年に多くの関連行事を開催したいと思っています。それには日独協会のもつネットワークが特に重要です。私は奈良日独協会の創造性と熱意について聞いておりますので、共に活動できることを楽しみにしています。今年は、両国関係の中でも特に人の交流に焦点を当てるのでしょうか。人間の直接の交流機会が強制的に失われた分を、取り戻していきましょう。移動制限が撤廃されるまで待つのではなく、たとえ「バーチャル」なものであってもクリエイティブに新しい出会いの形を見つけていきましょう。

日独交流160周年関連事業に対する皆さんの希望や期待を、ぜひ私に直接お寄せください。月ごとのテーマを決め、総領事館がイベントを主催したり、また皆さまの企画に提案を出したり、あるいは日本各地のドイツの友人の皆さまをつないだりしていきたいと思っています。皆様の友情並びに、ドイツ語とドイツ文化に対する変わらぬ関心に対し感謝すると共に、丑年の本年が皆様にとって幸せで健康な年となりますようお願いいたします。

マルティン・エバーツ
ドイツ連邦共和国総領事